

# 大腸内視鏡で 1cm 以上の腺腫 が見つかった人の大腸癌発症率

米国 Pittsburgh 大学の Benjamin Click 氏らは、大腸内視鏡検査を受けた集団を約 13 年間追跡し、腺腫性ポリープの有無とその後の大腸癌発症率を比較したところ、**進行した腺腫（直径が 1cm 以上、高度異型腺腫、乳頭状腺腫あるいは絨毛腺腫）**が見つかった患者の大腸癌発症率は高かったと報告、JAMA 誌に掲載されました。



1万人・年当たり的大腸癌の発症率は、進行した腺腫群は20.0（95%信頼区間15.3-24.7）でありました。



